

絆

清水はやと ニュースレター

KI-ZU-NA

さいたま市長
清水はやと
2023(令和5)年 増刊号



【プロフィール】 昭和37年3月生まれ。日本大学法学部卒業。(公財)松下政経塾卒塾(第7期生)。衆議院議員公設第一秘書、埼玉県議会議員(見沼区)2期を経て、平成21年さいたま市長選に初当選。平成25年、平成29年、令和3年と連続当選。著書に『2010年霞が関物語』(二期出版)、『犯罪のない安全なまちをつくる』(共著/埼玉新聞社)、『さいたま未来想像図』『スポーツで日本一笑顔あふれるまち』『もっと身近に、もっとしあわせに』『子どもが輝く絆で結ばれたまち』『人と人を絆で結ぶスマートシティ』(埼玉新聞社)などがある。共栄大学客員教授、指定都市市長会副会長も務める。平成25年「マニフェスト大賞 首長グランプリ」受賞。

「シンカ」。市民の皆やとともにも

皆さんこんにちは。さいたま市長の清水勇人です。5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症状上の位置付けが5類に移行したことにより、感染拡大防止に留意しながらではあります。日常生活が戻ってきました。

発生によって集中豪雨が続き、最高気温が40度に迫る日が続くなど、異常気象について肌身をもって感じました。今後このような「災害級」と言われる異常気象を考慮した対応・対策が求められます。

023年3月に改訂し、4月から施行しています。この計画では、今後発生が予想される様々な災害に対して、自助・共助・公助の精神で一体となって地域強化に取り組みするための基本方針を定めています。併せて、「別冊..さいたま市国土強靱化地域計画」に基づく事業一覧を作成し、毎年度更新を図ることとしています。

さて、市内各所で行われた夏祭りには、さいたま観光国際協会が各実行委員会等と連携し、大きな混乱もなく無事に開催することが出来ました。コロナ禍で影響のあった「地域の交流」や人と人の「絆」の重要性を再認識したところです。

本市では地球温暖化対策として、2021年度から2030年度までの10年間を計画期間と定めた「第2次さいたま市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」を策定しています。実行計画の中では、これまで本市が取り組んできた「さいたま市エネルギー・スマート活用ビジョン」や「さいたま市気候変動適応計画」を内包させ、市役所が行う温室効果ガス排出量の削減のための様々な措置等を包括的かつ計画的・効果的に推進します。

本年は区制施行20年の区切りの年となります。さいたま市の目標である「上質な生活都市」「東日本の中枢都市」という都市像の実現に向け、引き続き、責任と共感・共汗、徹底した現場主義、公平・公正・開かれた市政を目指すという基本姿勢を貫き、皆さんと共に力を合わせ本市を「シンカ」させたいと考えています。ぜひ皆さんの御理解、御協力を賜りますようお願い致します。

今年の夏は、集中豪雨と猛暑に見舞われました。国内では、線状降水帯の

次に災害に強いまちの対策としては、「さいたま市国土強靱化地域計画」を2

お願致します。

高いポテンシャル「選ばれる都市」へシンカ

SDGs先進度
2回連続 全国 1位

日本経済新聞社の「全国市区SDGs先進度調査2022」で、さいたま市が1位になりました。全国792市と東京23区を対象に、経済、社会、環境のバランスがどれだけ取れた発展につながっているかを評価した調査です。

転入超過数
8年連続 全国 1位

総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」によると、さいたま市は「0~14歳の転入超過数」が、8年連続で全国1位。子育て世代に選ばれていると考えられます。転入超過の市町村は全体の約3割に過ぎません。

英語教育実施状況調査
中3生 全国 1位

文部科学省「令和4年度英語教育実施状況調査」で、中学3年生の英語レベルが4回連続で全国1位になりました。令和4年度は全国平均が49.2%のところ、さいたま市は37.4ポイント上回り、86.6%と高い数値となりました。

全国学力調査
中3生全教科 指定都市 1位

文部科学省「令和5年度全国学力・学習状況調査」によると、さいたま市の中学3年生は、国語・数学・英語で全国20政令指定都市の中で1位でした。英語は、全国の平均正答率を7.4ポイント上回り、過去最高でした。

自治体DX推進度
全国自治体 第1位

iJAMP Times(時事通信社)が発表した「全国自治体DX推進度ランキング」で、さいたま市が全国1位になりました。DX推進度や行政サービスの向上・高度化などを評価したもので、さいたま市は91.676点でした。

市民意識調査
住みやすい 86.6%

「令和5年度さいたま市民意識調査」で、「住みやすい」と思う人の割合は86.6%でした。市長就任前の平成19年度と比較して12.6ポイント増加しており、さいたま市の住みやすさへの評価が高まっています。

飛躍へ 新時代への「シンカ」に取り組む

令和5年度当初予算 1兆1,289億円

大都市としての成熟度を深めながら時代を進める「シンカ」予算です。

感染症や自然災害に備えた 強靱な都市づくり

- ▽ 新型コロナウイルスワクチンの接種体制の確保(11,710,055千円)
- ▽ 下水道浸水対策の推進(2,766,439千円)
- ▽ 行政検査実施と保険適用された検査費用及び入院医療費の公費負担(2,101,740千円)
- ▽ 自宅療養者の相談対応やパルスオキシメーターの配送(1,184,779千円)
- ▽ 市立中学校体育館への空調機整備等の推進(1,744,900千円)
- ▽ 準用河川・排水路等整備の推進(1,274,860千円)
- ▽ 橋りょう耐震化の推進(1,033,520千円)
- ▽ 患者等の入院受入れを行った医療機関への補助(443,840千円)
- ▽ 流域対策施設整備の推進(215,595千円)
- ▽ 自宅療養者の訪問看護を行う指定訪問看護ステーションへの補助(38,400千円)
- ▽ G W・年末年始等における休日夜間急患診療所の検査体制の確保(18,309千円)

ポストコロナを見据えた さいたま市の魅力づくり

- ▽ 文化芸術創造拠点(市民会館うらわ新施設)の構築(5,780,718千円)
- ▽ ICTを活用した学びの改革(1,532,372千円)
- ▽ ゼロカーボンシティ実現に向けた地域循環共生圏の構築(756,480千円)
- ▽ 農業交流施設の整備及び先進技術の活用支援による農業DXの推進(610,927千円)
- ▽ 市民参加型の特色のある国際芸術祭の開催(453,582千円)
- ▽ 政令指定都市移行・区制施行20周年記念事業の実施(422,444千円)
- ▽ フルマラソンを中心としたランニングイベントの開催(305,687千円)

誰一人取り残さない持続可能で インクルーシブな地域づくり

- ▽ 高齢者・障害者施設、保育所・幼稚園等の事業継続に向けた物価高騰支援(958,940千円)
- ▽ 学校、保育所等の給食用食材の物価高騰支援(714,853千円)
- ▽ 医療的ケア児の受入支援体制の強化(159,727千円)
- ▽ 放課後児童クラブの充実による待機児童解消(127,605千円)
- ▽ 子どもに対する学習機会と居場所の提供(90,552千円)
- ▽ 新療育センターの整備(85,923千円)
- ▽ ケアラー・ヤングケアラーへの支援の充実(79,662千円)

公民学共創と 質の高い市役所づくり

- ▽ キャッシュレス決済の対象拡大(172,918千円)
- ▽ マイナンバーカードの普及促進及び交付窓口の強化(167,482千円)
- ▽ 働きやすい職場環境整備の推進(149,647千円)
- ▽ 産学連携等によるイノベーション創出の支援(43,320千円)
- ▽ グリーンインフラの推進(25,223千円)
- ▽ 公民連携によるJCHOさいたま北部医療センター跡地活用の推進(22,671千円)
- ▽ 窓口手続のオンライン化拡充(18,337千円)

「シンカ」への重点施策 「誰一人取り残さない」 さいたま市へ



子育て 「子育て楽しい」を実現します

幼児期の教育・保育や、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進する「子ども・子育て支援新制度」がスタートしました。子育てを中の方やこれから子育てをする方、子育てを応援している方へ総合的な情報発信を行う「さいたま子育てWEB」を中心に、「母子健康手帳」「父子手帳」「祖父母手帳」など様々な支援策を行っています。

【主な取組】▽ケアラー、ヤングケアラーへの支援の充実▽子どもに対する学習機会と居場所の提供▽放課後児童クラブの充実による待機児童解消▽多子世帯子育て応援金給付の実施▽学校、保育所等の給食用食材の物価高騰支援▽不登校等児童生徒支援センター（Growth）運営の充実



高齢者福祉 「健康長寿社会」を構築します

人生100年時代。誰もが生涯現役社会の一員として、積極的な社会参加と地域活動の担い手として活躍できるよう、様々な環境づくりに取り組みます。併せて、介護予防を推進して住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けられるよう、医療・介護・予防・生活支援・住まいを一体的に提供する「地域包括ケアシステム」を推進します。



【主な取組】▽高齢者・障害者施設、保育所・幼稚園等の事業継続に向けた物価高騰支援▽高齢者等の移動支援及び身近な公共交通の充実▽自治会電子回覧板モデル事業等の実施▽セーフコミュニティの推進▽さいたま市口腔保健センター（仮称）の整備

災害対策 「強靱な都市」を推進します

首都直下地震や激甚化する自然災害へ対応するため、都市・生活インフラの耐震性の確保や治水対策を進めます。改訂した「さいたま市国土強靱化地域計画」を基本に、迅速・円滑に災害情報を受発信し、配慮を要する方の避難体制を確保するなど、ハード・ソフト一体となった防災対策に、市民や事業者の皆さんと一丸となって取り組みます。



【主な取組】▽準用河川・排水路等整備の推進▽流域対策施設整備の推進▽下水道浸水対策の推進▽橋りょう耐震化の推進▽市立中学校体育館への空調機整備等の推進

笑顔あふれるまち

もっと身近に、もっとしあわせに

topic1 夏祭りなど再開 「絆」を深める機会に

市内各所で夏を彩る催しが再開され、私も久しぶりに「さいたまの夏」を堪能しました。今年は暑さが厳しく、主催者の皆さんは準備が大変だったと思いますが、本当に楽しい時間を過ごすことができました。皆さんのあふれる笑顔。祭りの魅力と素晴らしさ、そして地域のつながりを再認識し、「絆」を深める機会の大切さを再認識しました。



浦和おどりを楽しみました

topic2 さいたま国際芸術祭2023 10月7日から開催

10月7日より12月10日まで、政令指定都市移行20周年を記念して、3年に一度の市民参加型の芸術祭「さいたま国際芸術祭2023」が開催されます。気候変動、社会格差分担など様々な問題を抱える世界をあらたな目線でもう一度「みる」ことにつながる芸術祭を目指します。メイン会場には多様なアーティストが参加。ぜひご参加ください。



topic3 政府関係者へ要望活動を行いました

九都県市首脳会議を代表して「全国統一的な子供の医療費助成制度の創設」を、加藤勝信厚生労働大臣に要望しました。さらに、国交省と文科省、総務省へ、令和6年度の国の施策・予算に対する提案・要望を行っています。さいたま市や大都市特有の政策課題について政府関係者の理解と支援を得るべく全力で取り組みます。



加藤勝信大臣に要望書を手渡しました



▲ 斉藤国土交通大臣へ要望



▲ U7(アーバンセブン)国際会議で脱炭素を議論



▲ 農業DXに取り組む



▲ プロ野球BCリーグ始球式



▲ 水害の現地状況視察



▲ 先進自治体の教育DXのシンポジウムでパネリスト



▲ ピッツバーグ市長と姉妹都市調印



▲ 日本一の教育都市を目指して学校の視察



▲ さいたま市長杯「ヨーロッパ野菜料理コンテスト」開催



▲ 市民の声を大切に。タウンミーティングは延べ192回

